

抑圧者の役割と自分を良い人間と感ずること

自分は悪い人間だ」と感ずるのは、ディスチャージされていない自分の中の抑圧者のパターンがなしていることです。抑圧者・被害者の関係性においては、抑圧者がいつも「より悪い」人間です。ディスチャージしていない被抑圧側の被害者から見れば、自分が悪い人間だ、あるいは「自分のせいで」という考えを(その人が)内面化している場合でも、自分よりも抑圧者は「より悪い」人間だと考えます。

自分の中の抑圧者のパターンに取り組むと、自分が最も悪い人間だと感ずる箇所、つまり自分の人間性やインテグリティ(完全性・高潔さ)や勇気が挫かれる部分、をディスチャージすることができます。抑圧者として行動した一番最初の記憶について取り組むと、自分の思考能力、決断力、万物に主導権を握る力に気づくことができます。

この春、私は自分が抑圧者として行動した一番最初の記憶についての取り組みを始めました。5歳のときのことです。その前に何が起きたか(私を抑圧者に仕立てたそれ以前に受けた傷)はあまり関係ありません。そこに注目すると、自分が自分の再生におけるすべての責任を持ち、(その過程で)すべての主導権を握ることができなくなります。ここでは私の置かれていた状態など重要ではありません。ここで重要なのは私が人間を抑圧したということです。

子供に対する抑圧行為として、子供には自分の頭で考えることはできないと大人が子供に言うことがあります。これは間違っています。子供は考え、策略し、計画し、行動します。私は子供のころに自分が行った行為に対し責任があります。5歳のとき、私は自分が何を誰に対してしているのかちゃんとわかっていました。

抑圧者として行動した一番最初の記憶、特定の出来事をクリーンアップしようと決めることにより、「自分は悪い人間だ」という思いをディスチャージできます。また、幼いころも自分の脳はよく機能していて、いままで自分はすばらしい脳を持っていたことに気づきます。これらをディスチャージすればするほど、抑圧的な行動をするのがより難しくなり、抑圧的な考えが減り、「自分は悪い人間だ」と思う気持ちが減っていきます。

The Oppressor Role and Feeling Good About Myself

Heritage 4 号 123 ページおよびプレゼントタイム 2004 年 1 月号 47 ページより

Marcie Rendon (White Earth Anishinaabe)

翻訳 白石 理恵

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります。(翻訳文 2010 年。原文 2010

年)。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。